ISSN 0919-7850

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.177

2008年2月

平野総長がタイを訪問　チュラポーン研究所およびチュラポーン大学院大学との学術交流協定書に調印

http://www.nagoya-u.ac.jp/

名大トピックス No. 177

目 次

●ニュース
平野総長がタイを訪問 3
チュラポーン研究所およびチュラポーン大学院大学との学術交流協定書に調印
豊田講堂改修・増築工事の完成修祓式を挙行 4
大学入試センター試験が実施される 5
平成19年度事務職員の海外研修報告会を開催 5
学生による高校訪問「名大ナビゲーター」を実施 6
職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止研修会を開催 6
芦苅生物機能開発利用研究センター教授が日本学術振興会賞を受賞 7
平成19年度学生生活に関する教職員研究会を実施 7
年末キャンパスクリーンを実施 7
●知の先端
日本初の病院情報データベース「ホスピタル・ナビ」の開発 8
杉浦　伸一（医学部附属病院講師）
●学生の元気
多文化地域社会への参画 10
加藤　里奈（教育学部人間発達科学科４年）
Help Desk!!!!　～留学生に笑顔でスタートラインに立ってもらうために～ 11
平野　詩紀子（文学部人文学科４年）
●キャンパスクローズアップ
豊田講堂（第３回） 12
●部局ニュース
グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」 14
第２回国際研究集会を開催
国際開発研究科が公開講座「途上国開発戦略の基本と最先端」を開催 14
第17回 IHP 研修コース「豪雨と暴風気象の数値シミュレーション」を実施 15
第７回地球水循環研究センター公開講演会を開催 15
第７回遺伝子実験施設公開セミナーを開催 16
グローバル COE プログラム「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」 16
第１回物質科学フロンティアセミナーを開催
高等教育研究センター第40回客員教授セミナーを開催 17
「2007秋展　物語文学を読んでみよう」を開催 17
●環境への取り組み
環境報告書―環境に対する名古屋大学の社会的責任 18
●本学関係の新聞記事掲載一覧　平成19年12月16日～平成20年１月15日 19
● INFORMATION
平成19年度定年退職教授等の最終講義日程 21
●イベントカレンダー 22
●ちょっと名大史
名大史ブックレット―テーマ別の名大史― 24

平野総長がタイを訪問
チュラポーン研究所および チュラポーン大学院大学との学術交流協定書に調印

2

1 3 4 5

1　調印式での記念撮影（本学：平野総長、山本理事、磯部教授、CRI：チュラポーン王女夫妻、ソムサック教授夫妻）
2　協定に署名後、文書を取り交わす平野総長とチュラポーン王女
3　全学同窓会タイ支部との懇親会
4　チュラロンコン大学学長との会談
5　カセサート大学長他との意見交換会

平野総長は、昨年10月に本学を訪問したチュラポーン・マヒドン王女殿下が所長を務めるチュラポーン研究所（以下 CRI）およびチュラポーン大学院大学（以下 CGI）と本学との学術交流協定の調印式に出席するため、山本理事、磯部　稔生命農学研究科教授らと共に、１月21日（月）から23日（水）までの３日間、タイを訪問しました。

21日にバンコクに到着した総長一行は、本学全学同窓会タイ支部メンバー主催の懇親会に出席しました。同支部は2005年12月に設立されて以来、本学と強い連携を持って活動しており、懇親会へも多くの同窓生が駆けつけ、歓迎を受けました。

22日午前には、チュラロンコン大学を訪問しました。同大学は、全学学術交流協定校及び AC21の主要なメンバー校でもあり、本学とは深い関係を有しています。チャラット・スワンウェラー理事長及びスチャダー・ギーラナン学長との会談では、総長から AC21の活動、産学連携及び国際開発研究科・環境学研究科を中心に取り組んでいる ESD（持続可能な発展のための教育）に関する協力を要請し、先方からは癌研究に関する共同シンポジウムの開催について提案があり、これらの案件について今後双方が協力していくことで合意しました。

午後からは、同じく全学学術交流協定校であり、AC21メンバー校であるカセサート大学を訪問し、ウティチャイ・カピンラカーン学長をはじめ多くの関係者の出席の下、意見交換が行われ、鳥インフルエンザ等に関する研究の分野で協力することが合意されました。

翌23日、平野総長は CRI および CGI と本学との学術交流協定調印式に臨みました。CRI とは主に有機化学の分野における共同研究や研究者交流等を約20年にわたって続けており、CGI は CRI に併設された大学院教育を行う機関です。調印式は、現タイ国王の姉で、チュラポーン王女の叔母であるカラヤニ王女の逝去にともない、タイ国民が喪に服す中で執り行われました。総長はあいさつの中で、逝去されたカラヤニ王女に哀悼の意を表し、本協定締結に至るまでの CRI および CGI 関係者の尽力に対し感謝の言葉を述べると共に、今回の協定締結により、両機関の交流及び協力が有機化学以外の分野にも拡大し、共同シンポジウムの開催や大学院生の交流にまで発展することが期待できる等本協定のメリットについても強調しました。また、総長一行は、式典終了後、CRI および CGI の研究施設等を視察し、同機関の研究概要や研究成果について説明を受けました。

豊田講堂改修・増築工事の完成修祓式を挙行

平成18年12月の着工から約１年間にわたり進められてきた豊田講堂改修・増築工事の完成修祓式（しゅばつしき）が、12月25日（火）に挙行されました。

完成修祓式は、建物の利用に先立ち、工事の無事終了に感謝するとともに、建物全体を清め祓う儀式で、今回の改修・増築プロジェクトのためにご寄附をいただいたトヨタグループ企業10社を代表して、トヨタ自動車株式会社の主催により行われたものです。

儀式の神官は、工事着工時に開催された安全祈願祭と同様、文武天皇朝・大宝年間（701～704年）からの由緒が伝えられる若宮八幡社が務めました。

式典は、改修工事の完成を迎えた豊田講堂メインエントランスのロビーを会場とし、トヨタ自動車株式会社の総務部およびプラント・エンジニアリング部から７名、設計・監理を担当した株式会社槇総合計画事務所から４名、工事を担当した株式会社竹中工務店から12名が列席したほか、本学からも17名が参加し、計40名の参列者となりました。

神官による「修祓の儀」「降神の儀」「祝詞奏上」など、一連の神事が静謐な雰囲気のなかで執り行われ、「玉串奉奠」では、トヨタ自動車の河合和之総務部長、槇総合計画事務所の福永知義取締役副所長、竹中工務店の村松映一取締役副社長および本学の大峯理事が祭壇に向かい、神前に玉串を捧げました。

神事の最後に行われた「直会」の席では、プロジェクトを統括したトヨタ自動車の小山裕康プラント・エンジニアリング部長と本学の杉浦理事があいさつを行い、ともに改修・増築工事の完成を讃えました。新しく生まれ変わった豊田講堂が、今後も名古屋大学のシンボルとして親しまれ続け、さらに隣接するシンポジオンとの一体化と相俟って、一層の有効活用がなされることを祈念し、完成修祓式は閉会しました。

玉串奉奠（トヨタ自動車）

玉串奉奠（槇総合計画事務所）

直会であいさつをする杉浦理事

玉串奉奠（竹中工務店）

大学入試センター試験が実施される
―本学関係会場で約6,100名が受験―

平成20年度大学入試センター試験が１月19日（土）、20日（日）の２日間、全国736会場で実施され、本学関係では東山キャンパスや学外の高等学校など８会場で約6,100名が受験しました。

今年度のセンター試験では、利用大学が前年度より14校増え過去最高となり、志願者については、前年度より9,967名少ない543,385名でした。

試験に臨む志願者

試験当日は、午前８時すぎには、コートやマフラーで身を包んだ受験生が会場に集まり始め、参考書やノートで最終チェックをしたり、友人との会話でリラックスするなどして、各々の方法で試験に備えていました。また、グリーンベルト周辺では高校ごとに集合し、教師から激励を受けたり、円陣を組んで健闘を誓う受験生の姿が見られました。

本学関係の試験場では、１日目の公民、地理歴史、国語、外国語、２日目の数学、理科が予定どおり行われました。また、平野総長と高橋理事が本学関係の各試験場を訪れ、試験場主任及び教職員にねぎらいのことばをかけました。

なお、本学の個別学力検査は、２月25日（月）及び２月26日（火）の２日間にわたって実施されます。

平成19年度事務職員の海外研修報告会を開催

平成19年度事務職員の海外研修報告会が、12月20日（木）、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

今回は、本学の「事務職員の海外研修」に参加した16名と、文部科学省「国際教育交流担当職員長期研修プログラム（LEAP）」修了者２名から報告があり、80名を超える出席者の熱気に包まれました。

「事務職員の海外研修」は、公募制を採用し、研修に参加する職員自らで研修計画を立案することで、本学のアジアを中心とした国際交流戦略等について認識させ、それによって事務職員の能力・意識を向上させることを目的として実施しているものです。一方、LEAP は、アメリカの大学における語学研修とインターンシップを組み合わせたプログラムで、国際交流担当職員の海外における研修を通じて、大学の国際競争力の強化等を図ることを目的として実施されているものです。

報告会では、高橋事務局長から職員研修に寄せる期待が述べられた後、アメリカ、中国、インドネシア、韓国、タイにおける研修の概要及びその成果について研修参加者から報告があり、出席者からは高い関心が寄せられました。

報告会終了後に開催した懇親会では、研修参加者を囲んで懇談が行われ、通常業務では関わる機会が少ない事務職員同士の交流という意味でも、大変有意義な機会となりました。

報告を行う研修参加者

会場の様子

学生による高校訪問「名大ナビゲーター」を実施

入試広報の一環として、今年度から、学部学生による高校訪問「名大ナビゲーター」が実施されました。

本学が学術憲章に掲げる「論理的思考力と想像力に富んだ『勇気ある知識人』」を育てるためには、日本全国から優秀な学生を獲得し、現在以上に学部教育を充実、活性化させる必要があり、これまでにも、さまざまな入試広報活動に取り組んできました。そこで、全国的な総合大学として、各地から優秀な学生に志願していただくために、大学と高校との相互理解を深め、長期的・継続的な交流を図ることを目的とし、在学生が母校を訪問して「名古屋大学」と「元気都市名古屋」の魅力を、大学受験を目指す高校生や高校関係者に直接アピールすることにしたものです。

９月７日(金)には、「名大ナビゲーター」として派遣する学生の任命式を執り行い、杉山理事が名古屋大学の代表としての自覚と責任をもって任務を遂行するよう激励しました。任命された10名の学生は９月から11月にかけて母校を訪問し、高校生や高校関係者に直接大学をアピールしました。さらに、12月19日(水)に開催した報告会では、杉山理事及び高橋事務局長が次年度の実施に向けて、派遣学生と忌憚のない意見交換を行いました。

次年度以降は、学生からの意見も踏まえて実施方法を改善し、さらに、派遣する地域・高校を戦略的に選定して、これまで入学者が少ない地域からの志願者の増加を図ることとしています。

12月19日に開催した報告会の模様

入試広報用リーフレット「元気都市名古屋入門」

職員のためのセクシュアル・ハラスメント防止研修会を開催

職員のためのセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）防止研修会が、12月17日(月)、18日(火)、19日(水)、１月15日(火)の４日間、主任以下の職員等、掛長以上の管理監督者、医学部附属病院の職員のそれぞれを対象として実施されました。

この研修会は、セクハラが人権侵害であると理解し、セクハラの被害を早期に発見し、セクシュアル・ハラスメント相談所を周知すること、そして、リスクマネジメントの視点からセクハラ問題を考えることを目的として開催され、４日間で約360名が参加しました。

12月17日、18日及び１月15日の研修会では、本学のセクシュアル・ハラスメント防止対策委員から、大学のセクハラ防止とセクハラ相談所について説明があった後、同相談所相談員からビデオ等を用いた分かり易い講習があり、参加者はセクハラ問題の基礎知識を学びました。

また、12月19日の研修会では、原人事労務課長のあいさつの後、弁護士の北川ひろみ氏（愛知県弁護士会所属）から「セクシュアル・ハラスメントの現状と対策について」と題して講演がありました。参加者は、具体的な判例の動向についての説明を聞き、管理者としての対応について理解を深めました。

本学では、２月～３月に教員を対象とした研修会も計画しており、今後とも一層のセクハラ防止対策に取り組んでいくこととしています。

講演する北川弁護士

会場の様子

芦苅生物機能開発利用研究センター教授が日本学術振興会賞を受賞

芦苅基行生物機能開発利用研究センター教授が、第４回（平成19年度）日本学術振興会賞を受賞しました。今回は、415名の被推薦者の内、23名の受賞が決定したものです。

同賞は、日本学術振興会により、優れた研究を進めている若手研究者を見いだし、早い段階から顕彰してその研究意欲を高めるとともに、独創的、先駆的な研究を支援することにより、我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルに発展させることを目的に、平成16年度に創設されたもので、芦苅教授の受賞は、「イネの生産性向上に関与する遺伝子の同定と優良新品種の作出」の成果が評価されたことによるものです。

なお、授賞式は、３月３日（月）、東京都台東区の日本学士院において行われます。

平成19年度学生生活に関する教職員研究会を実施

齋藤東京工業大学准教授による講演の様子

平成19年度学生生活に関する教職員研究会が、12月21日（金）、環境総合館１階レクチャーホールにおいて実施されました。

同研究会は本学における学生指導の当面する諸課題について検討するとともに、学生指導の在り方について研究討論、意見交換を行うことにより、教員及び事務職員の連携をより緊密なものとし、学生指導の円滑な運営を図ることを目的としたもので、杉山理事をはじめ、本学の教職員約70名が参加しました。

今年度は「大学院生への支援」を研究課題とし、講師として齋藤憲司東京工業大学保健管理センター准教授を招き「大学院生への支援－適応状況と心理的課題から－」と題して基調講演が行われました。参加者は、学生支援の在り方や対応システムの整備等について熱心に聞き入った後、引き続きパネルディスカッションを行い、本学の現状と今後の在り方について活発な意見交換を行いました。

年末キャンパスクリーンを実施

清掃作業の様子

12月19日（水）、年末キャンパスクリーン（屋外清掃）が、全学の教職員及び学生の参加を得て実施されました。

キャンパスクリーンは、構内美化の一環として行われており、今年度は名大祭終了後（６月）にも実施しています。

本部からは約90名の参加があり、山口施設管理部長のあいさつの後、東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、枯葉、空き缶、紙くず等の除去や、ビラ等の撤去などを行いました。

本学では、今後もキャンパスクリーンを継続することにより、「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。

日本初の病院情報データベース「ホスピタル・ナビ」の開発

杉浦　伸一　医学部附属病院講師

はじめに

平成18年度科学技術振興調整費　先端融合領域イノベーション創出拠点「予防早期医療創成センター」は、「手のひらに名医・大病院を」という共通のコンセプトを持ち、医学部附属病院のメディカルシステムグループ（MS グループ）として、病院情報 GIS（Geographic Information System）「ホスピタル・ナビ」を開発しました。MS グループは、太田美智男グループリーダーのもと、伊藤忠商事株式会社をパートナーとして研究をすすめています。

「ホスピタル・ナビ」は我々が中心となり開発した全国版病院検索 GIS システムです。GIS とは、地理情報システムの略称で、文字や数字、画像などを地図と結びつけて、コンピュータの画面上に再現し、位置や場所から情報を分析したり、分かりやすく地図表現したりすることができる仕組みです。我々は、GIS を全国の医療施設（医科、歯科、薬局）の診療機能情報に応用し、様々な解析ができるようにしました。さらに、工学研究科の古橋研究室との協力により、患者様の症状から、自宅近くの病院・診療所を検索するテキストマイニングエンジンを開発しました。

ホスピタル・ナビで何ができるか

このシステムでは、全国どの場所からでも、任意の位置から一定距離内に存在する医療施設を複合的に検索して地図上に配置させるとともに、医療機能の統計結果を提示できます。これらの GIS を用いた見える化技術により、「行政的視点」、

「治療者側の視点」、「患者様側の視点」あるいは「企業の経営的な視点」から様々な運用が可能となります。また、双方向の情報通信エンジンと症状から病名を検索するエンジンを開発しており、診断支援ばかりではなく、症状から病院へ誘導することも可能となります。

例えば日常診療において他の医療機関と連携する場合、電子カルテシステムに関わりなくテンプレート化されたデータを共有したり、患者様を紹介したりすることも可能です。「患者様と医師」、「医師と医師」、「医療機関同士」あるいは「救急隊」とも連携がとれます。

患者様側の視点に立てば、いつでも、どこでも携帯電話で目的とする病院、診療所を検索することができます。つまり、症状や状況に応じた病院を検索できます。例えば、旅先でペースメーカーの調子が悪いと感じた時、ペースメーカーの診療ができる病院を簡単に見つけることができるのです。診療時間などの詳細情報はgoogle検索によって調べられるように配慮しています。

行政的な視点から利用すれば、県境の医療整備について隣県と検討する基礎資料となりますし、医療過疎の問題を単なる市町村人口から割り出すのではなく、アクセスのしやすさ等の交通状況を考慮した検討が可能となります。それにより市町村の状況に応じた施設配備が可能となります。

さらに、企業経営の視点からは、高額な医療機器を導入する際のマーケティング情報の収集や、開業時のコンサルテーション、あるいは基幹病院を中心とした特定診療科情報の収集など、様々なプロモーション活動に応用できます。

ホスピタル・ナビの可能性

既存の多くの病院情報検索サイトは、データの改定サイクルが遅く、一か月に数百件も変更される病院・診療所の情報を網羅的にデータベース化できませんでした。また、GIS技術、テキストマイニング技術及び双方向通信エンジンを持つ医療情報ポータルサイトは現存しません。

ただし、世界的にみるとマイクロソフト社は、HealthVault（http://www.healthvault.com）というポータルサイトを立ち上げて、世界中の医療情報を一手に握ろうとしています。それは、パーソナルコンピュータでオペレーティングシステムを独占したように、医療データベースでも世界を握ろうとする先験的な試みとも考えられます。

一方、国内では我々のデータベースに匹敵するシステムは存在しません。今年度は、データベースの用途について、その可能性を検証していく予定です。例えば、乳がん年齢と美容院に行く女性の年齢層が一致することから、美容院のお客さんにマンモグラフィーを受けてもらうためホスピタル・ナビが利用されることになりました。診療に携わる先生方や、その他、医療機関との連携を取りたいとお考えの先生方は、是非ホスピタル・ナビとの連携をお願いします。

現在は、企業のコンサルテーションに利用されないように機能限定版を患者様用として公開しています。以下のURLにアクセスしていただけば、どなたでもご利用いただけます。

PC用：
http://www.geosense.co.jp/pubhnavi/pub_hnavi.html
携帯用：
http://www.geosense.co.jp/pubhnavi/custom1/

1960年生まれ。1985年、名城大学薬学専攻科を修了。赤十字病院で13年間臨床薬剤師を勤め、名古屋大学医学部附属病院薬剤部を経て、現在は医療経営管理部及び予防早期医療創成センターMSグループ所属。専門分野は静脈栄養療法。座右の銘は「得意淡然」・「失意泰然」。
薬剤師国際癌学会のInternational standardの策定メンバー。
日本静脈経腸栄養学会「フェローシップ賞」、工学研究科古橋研究室との共同研究でISIS2007「Best Paper Award」を受賞。

すぎうら　しんいち

学生の元気

多文化地域社会への参画

教育学部人間発達科学科４年
加藤　里奈

東海小学校日本語教室で個別指導

「子どもが好き！」「地域の国際化ってどうなっているの？」「なんだか面白そう」名大ボランティアサークル JETs（ジェッツ・東海小日本語教育支援者の略称）は小さなきっかけで集まった学生のグループです。

JETs が活動する名古屋市立東海小学校には全校児童の32パーセントになる外国人児童が在籍しており、その多くがブラジル人の子どもたちです。小学校には日本語が分からない子どもたちのために日本語教室が設置され、そこで日本語担当の先生方と子どもたちが日本語の学習をしています。私たち JETs はこの日本語教室の先生方を補助する活動をしています。

東海小学校のある港区は名古屋市の中でも外国人住民が多く在住しており、小学校に隣接する九番団地は市内でも最大級の外国人集住地区となっています。2000年から教育学部の今津研究室は「多文化化する地域社会と教育」を調査するためにその団地と小学校の見学を重ねてきました。この関係から2006年度、教育学部の４年生一人が週１回のボランティアとして小学校の日本語教室に参加する希望を出したところ、学校が受け入れてくださったことで、学生ボランティアが実現しました。この学生の活動を引き継いで、2007年度から JETs はスタートしました。

最初は５名からのスタートでしたが、現在は教育学部の２年から４年生計10名が所属し、毎日１名から３名が分担して活動しています。朝１時間目から授業に参加し、休み時間や給食など一日を子どもたちや先生方とともに過ごしています。

１学期からの活動を通して小学校の先生方からは「子どもたち一人ひとりの学習に対応してもらえることができ、助かっています」というお言葉をいただいています。最初は戸惑っていたメンバーたちからは「大学の講義では知りえない子どもたちや先生方の感情の変化が伝わってくる」「子どもたちと学ぶことで楽しいことがたくさんあるけれど、難しい問題にもぶつかる」「私たちは子どもたちや地域のために今何ができるだろう？」という声が上がるようになり、サークルとしての成長を感じています。

これからも JETs の活動を継続することで、地域社会の多文化化について考え、周囲に発信していきたいと思います。

東海小学校の先生方と日本語学習の打ち合わせ

かとう　りな
1985年生まれ　愛知県出身

Help Desk!!!! ～留学生に笑顔でスタートラインに立ってもらうために～

文学部人文学科４年
平野　詩紀子

2007年秋のヘルプデスク終了日、デスクを片付ける前に日本人学生と留学生が集合

ヘルプデスクは、新しく名古屋大学で学生生活を始める留学生が気軽に質問に立ち寄ることのできる場を提供する活動を行っています。留学生が渡日する春学期と秋学期の約１ヶ月前から準備を始め、新学期がスタートすると２週間ほどヘルプデスクコーナーを留学生センターのラウンジエリアに設けています。活動期間中は、学食ツアーやランチタイム交流など、質問の場としてだけではなく、出会いの場や交流のきっかけになるようなイベントも開催しています。

私たちメンバーは、ヘルプデスクの期間中、今日はどんな人と出会えるのだろうか、どんな質問が飛び込んでくるのだろうかと、わくわくの連続です。質問がなくても、たくさんの留学生が私たちに気軽に話してくれるようにと、デスクに駄菓子や折り紙をおくなどといったアイデアを出し合いながら、メンバー同士この交流の場をとても楽しんでいます。また、少し困った顔をしながら質問に来た留学生が、「ありがとう」と言って笑顔で帰ってくれるときが、私たちにとって一番やりがいを感じる瞬間です。最初はヘルプデスクのメンバーがデスクに座り、それから質問にきた留学生がその周りに集まり、それをきっかけにコミュニケーションの輪が出来上がります。この輪ができたおかげで、さらに交流活動を広げていくこともできました。

今学期の活動を振り返ってみると、ヘルプデスクはただ質問に答えるだけの場ではなく、とても有意義なコミュニケーションの場として、留学生だけでなく日本人学生のみなさんにも活用していただけたと思います。今後も名古屋大学にやってくる留学生が笑顔で新生活をスタートさせるお手伝いができるよう、さらに活気のあふれる交流の場を創っていきたいと思っています。

たくさんの人と出会い、たくさん話すヘルプデスクの活動を通し、みなさんも新学期をスタートするエネルギーを私たちと一緒に得ませんか？私たちは、春に向けて新しいメンバーを募集しています。興味のある方は是非ご連絡ください。

ヘルプデスクのメンバー

ヘルプデスク事務局
helpdesk0701@gmail.com

ひらの　しきこ
1985年生まれ　三重県出身

21. 豊田講堂（第３回）

改修工事を終えた豊田講堂（夕景）

前回に引き続き、豊田講堂改修・増築工事の詳細について紹介します。

■講堂客席の機能改善

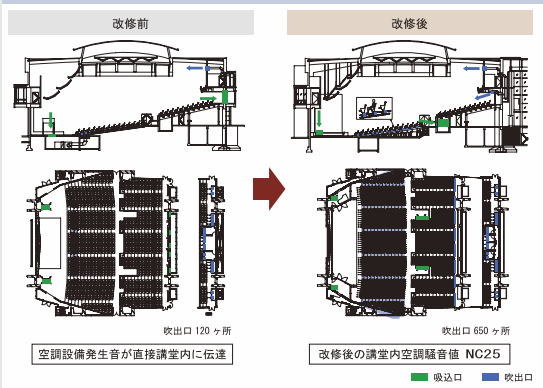
客席空間は、「ホール性能の改善」という重要なテーマのもとで、機能性と快適性の確保を主眼に置き、様々な視点から改善の工夫を重ねました。

座席は固定椅子の幅・前後間隔を従来よりも広げ、ゆったりとした寸法設定としました。１階客席には収納式テーブルを新たに設け、その寸法はA4紙のメモやノートパソコン利用を考慮し、決定しています。また、従来の椅子の座面と背板は再利用し、環境保護とコスト面に配慮しました。椅子の更新施工については、事前にモックアップの試作や検討を重ね、座り心地や使い勝手、仕上り具合を確認しながら練り上げていきました。

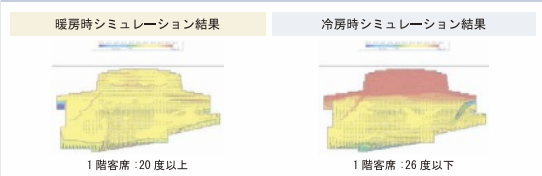
空調設備は、ホール背面の上部から吹き降ろす従来の全体空調方式を抜本的に改善し、客席の段床部に吹出口を設けて床面付近の空調を効率的に行う居住域空調方式を採用しています。また施工に先立ち温熱環境や気流のシミュレーションを行いました。空調設備の改善により、従来問題となっていたステージ付近の底冷え（舞台おろし）や空調騒音も同時に解決することが期待できます。

音響設備は、過去にも機器更新がなされてきましたが、操作に専門的な知識が必要であったためか、必ずしも活用されていない状況でした。今回の機器更新では、シンプルな操作で意図した効

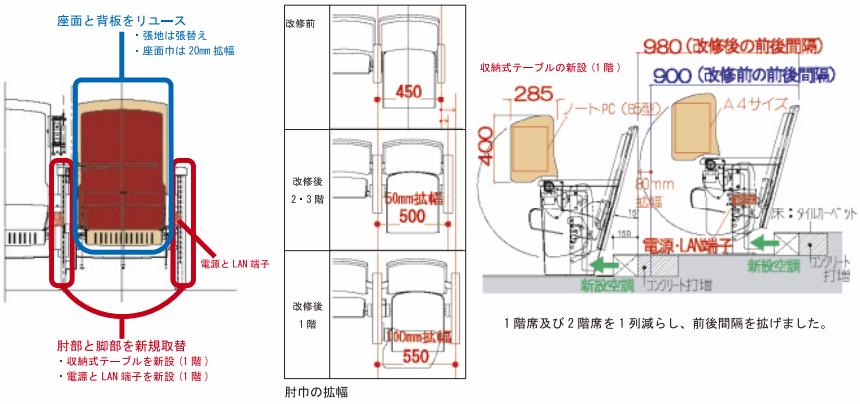
講堂空調方式の概要



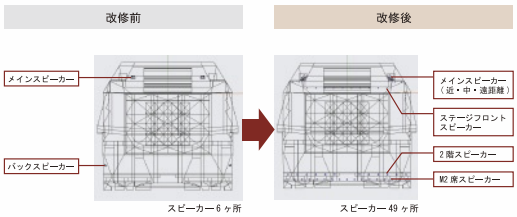
改修後の温度分布予測（気流シミュレーション結果）



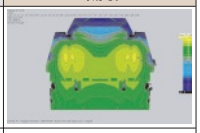
講堂固定椅子の改善



講堂電機音響設備



改修前後のスピーカー音圧分布シミュレーション結果

	改修前	改修後
4KHz 音圧分布図		
スピーカー設置場所の音圧レベル（dB）	100	100
客席中央部の音圧レベル（dB）	90	96
音圧レベル差（dB）	10	4

講堂電気音響設備の音圧レベル差は 4dB で、客席のどの位置でも均質な講演環境となっています。

果を得られるよう、改めてシステムを構築しました。また、講演会の際、壇上の講演者が自分の声を聴取り難い問題があり、講演者が感じるこのような違和感を解消するため、「跳ね返りスピーカー」を新たに設置しました。客席エリアには小型スピーカーを多数設置し、どの座席にいても音声を明瞭に聴き取れるよう配慮しています。

照明設備についても、音響設備と同様に操作性を改善し、イベントごとにシーン設定をワンタッチで切替えられるようにしたほか、ステージ・客席各々に適した照度の確保を実現しました。

■舞台の機能改善

従来の舞台空間は、中央部に長方形のステージが置かれただけの簡素なものでした。また、舞台袖等のバックヤードが殆ど確保されていないことが利用形態を制約する原因となっていました。

そのため、バックヤードに袖舞台を新設し、機器操作や出待ちスペースとして利用すると共に、ステージを可能な限り拡張しました。新たに設けた袖舞台の壁は、音響シミュレーションの実施を踏まえ、反射板としても有効に作用することを意図したものです。

また、ステージのみの部分空調設備を設け、これまでも活用されてきたサークル活動の稽古や練習時に、快適な温度環境での利用を可能としています。

これらの機能改善により、学会やシンポジウムはもとより、音楽・演劇・舞踊等の発表や練習の場としても、いっそう幅広く活用されることが期待されます。

■その他

一般的な改修計画では、建物の安全性の確保が非常に重要です。豊田講堂の場合、ホール上部を覆う屋根にシェル構造という特殊な形式が用いられており、通常の耐震診断手法とは異なる安全性の検証が必要でした。

そのため、改修計画に先立ち、本学の建築構造に関する研究グループの協力を得て、シェル屋根の常時微動計測を実施し、データを構造解析に反映しました。その結果、耐震補強はシェル屋根の四辺に炭素繊維シートを張る工法を採用し、部材強度を補強することにより安全性の向上を図っています。

外観の特徴のひとつである時計台についても、大屋根と接する付け根の部分に耐震対策が必要であることが分かったため、屋内にコンクリート壁を増設して補強を行いました。

（施設管理部）

グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」第２回国際研究集会を開催

グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」は、12月14日（金）から16日（日）の３日間、フランス、アメリカ合衆国及びカナダの最前線で活躍する５名の研究者を招いて第２回国際研究集会「バルザック、フローベール　作品の生成と解釈の問題」を開催しました。

はじめに、拠点リーダーの佐藤彰一文学研究科教授及び研究サブリーダーの松澤和宏同研究科教授から、同プログラムと国際研究集会の趣旨について説明がありました。

活発に意見交換を行う参加者

同プログラムにおいて扱っている解釈の問題は、作品の生成過程を扱う実証研究とは区別されて、作品受容の問題として主に考察される傾向がありますが、今回の国際研究集会では、解釈の営みが作品受容においてばかりではなく、作品生成の過程においても主要な役割を果たしているのではないかという問いかけを発条として、バルザックとフローベールという19世紀フランスを代表する作家の草稿を含むコーパスが取り上げられました。書くという営みがすでに書かれたものを再解釈する営みであり、様々なテクストに応答する営みであることが、作品解釈を具体的に更新しつつ明らかにされました。

各講演はきわめて独創的なもので、講演後には活発な議論が展開されました。テクスト布置の解釈学的研究の独創性と有効性をめぐって、外国の研究者からも好意的で積極的な意見が相次いで表明され、生産的な意見交換が実現しました。

国際開発研究科が公開講座「途上国開発戦略の基本と最先端」を開催

●大学院国際開発研究科

大学院国際開発研究科は、10月２日（火）から12月18日（火）までの毎週１回、計12回にわたって平成19年度公開講座「途上国開発戦略の基本と最先端」を開催しました。

同講座には、20～30歳代を中心に35名の応募があり、参加者は、他大学で途上国について学ぶ学生、開発系大学院を目指す方、青年海外協力隊を経験した方、NGO 関係の方、仕事で途上国に関係する方など、各方面から広く集まりました。毎回の講義後には活発な発言があり、質問も多数寄せられました。

この公開講座は、途上国開発関係の多様な専門家を集めている国際開発研究科の特長を生かしたもので、貧困、経済、政治、教育、環境、紛争、農村、市民社会、人の国際移動、世界貿易機構（WTO）などについて、多数の現場写真を交えて最新の話題が展開され、複数の参加者から、本学の教員の質の高さを実感したとの感想が寄せられました。

被差別少数部族子女の全寮制教育をする NGO（インド）

非識字で電卓も使えない八百屋（カンボジア）

第17回 IHP 研修コース「豪雨と暴風気象の数値シミュレーション」を実施

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、12月２日（日）～15日（火）の２週間にわたり、第17回 UNESCO 国際水文学計画（IHP）短期研修事業（IHP 研修コース）を実施しました。

今回は、「Numerical Prediction of High-Impact Weather Systems（豪雨と暴風気象の数値シミュレーション）」と題して、UNESCO 派遣研修生８名、私費参加者２名及び環境学研究科博士後期課程３名の合計13名の参加のもと、数値モデルの理解と実行を目標として講義と演習を行いました。数値流体力学の基礎、雲・降水のシミュレーション及び全球モデル等について、各分野の最先端で活躍する専門家が講義を行い、演習では、情報連携基盤センターのコンピュータを使用し、本学で開発している雲解像モデル CReSS（Cloud Resolving Storm Simulator）を用いて、基礎的な大気の運動から、台風についてまでのシミュレーション実験を行いました。また、気象庁において日本の気象業務の現状について説明を受け、海洋研究開発機構では、実行性能としては世界屈指の速度を誇る地球シミュレータを見学しました。

坪木和久地球水循環研究センター准教授による講義

参加した研修生らは非常に熱心で、一生懸命学ぼうとする真摯な姿勢が見受けられました。今回の研修で利用した数値モデルやテキスト等を自国に持ち帰り、十分に活用することが期待されます。

第７回地球水循環研究センター公開講演会を開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、１月12日（土）、環境総合館レクチャーホールにおいて公開講演会を開催しました。同講演会は日ごろの研究成果を一般の方々へ還元することを目的に、毎年１回、一般市民向けに開催しているもので、今回は海洋学を専門とする研究室が中心となり「黒潮の変動と我々のくらし」をテーマに実施しました。

会場の様子

東シナ海を経て日本南岸を流れる黒潮は、地球上のエネルギー輸送に大きな役割を果たし、日本の気候に影響を与えるとともに、マグロ、アジ、サバ等の卵稚仔魚輸送にも関係し、我々のくらしと密接に関係しています。同講演会では、今脇資郎九州大学教授が黒潮の流路とその変動について、久保田雅久東海大学教授が地球上での熱のやり取りとそれに対する黒潮の寄与および重要性について、秋山秀樹水産総合研究センター室長が黒潮域における魚の生き残り戦略について、森本昭彦地球水循環研究センター准教授が黒潮の変動に伴う沿岸域の変化について講演しました。

当日は、悪天候のなか87名もの参加を得ることができ、また、各講演に対して多くの的確な質問があり、本学の研究成果について一般の方々からの関心が寄せられていることが認識できました。同センターは今後も講演会を継続し、研究成果を一般の方に伝えていく予定です。

第７回遺伝子実験施設公開セミナーを開催

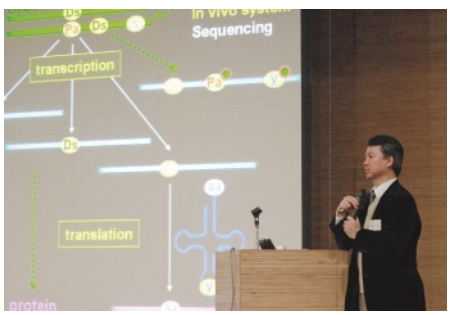
●遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、12月19日（水）、野依記念学術交流館において、第７回遺伝子実験施設公開セミナー「生物学と化学と工学がおりなす生命科学の新たな展開」を開催しました。

本セミナーでは、小澤岳昌東京大学理学系研究科教授が、「生きた細胞と生物個体内の生体分子イメージング」と題して、タンパク質スプライシング反応を生体分子イメージング技術に応用した画期的な研究成果を発表し、タンパク質の細胞内におけるダイナミックな動きや、タンパク質と RNA の相互作用の瞬間を捉えた美しい画像がスクリーンいっぱいに映し出されました。続いて、平尾一郎理化学研究所ゲノム科学総合研究センター核酸合成生物学研究チームリーダーが、「セントラルドグマの合成生物学－人工塩基対の創製」と題して、全く新しい分野である合成生物学の世界的な潮流とバイオ分野への応用研究について講演を行いました。遺伝情報を蓄える DNA は４種類の塩基からできていますが、平尾チームリーダーらは、硫黄等で作った人工塩基２種を DNA に追加して、人工 DNA を複製、転写することに世界で初めて成功しました。このような研究により、天然にない「人工タンパク質」を作り、新薬開発に役立てることが可能となります。

一般市民を含む100名を超える参加者が、エネルギッシュな講演に熱心に聞き入っていました。講演後、多くの参加者から実験についての質問や意見が出されるなど活発な議論が行われ、大変有意義な公開セミナーとなりました。

公開セミナーの会場風景



講演する平尾理化学研究所チームリーダー

グローバルCOEプログラム「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」第１回物質科学フロンティアセミナーを開催

グローバル COE プログラム「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」は、１月11日（金）、12日（土）の２日間、第１回物質科学フロンティアセミナー―精密分子設計に基づく機能創出―を、日本化学会の協賛により野依記念物質科学研究館において開催しました。

初日は、拠点リーダーである渡辺芳人物質科学国際研究センター教授からの、同プログラム及び同セミナーの開催意義についての説明と、本学若手研究者に対する期待と激励の言葉を開会あいさつとして始まりました。続いて西林仁昭東京大学准教授、高尾俊郎東京工業大学助教、松永茂樹東京大学助教、瀧宮和男広島大学教授による４件の招待講演に加え、本学博士後期課程学生による若手講演が２件行われました。また途中、コーヒーブレイクを兼ねてポスター発表が企画され、学内外からの36件の発表に対して活発な議論が交わされました。夕刻には、学生が研究科の枠を超えて交流し、また、第一線で活躍する若手研究者である招待講演者と直に接する場として懇親会が催されました。２日目は、山下誠東京大学助教、ウェブスター･L･サントス バージニア工科大学助教授、清野秀岳東京大学助教、磯部寛之東北大学教授による４件の招待講演と１件の若手講演が行われ、延べ200名を越える参加者を集めたセミナーは盛会のうちに終了しました。

若手研究者の教育を趣旨とする同プログラムの一環として開催された同セミナーは、学生からの積極的な質問により討論が盛り上がり、物質科学の将来を担う本学若手研究者の熱気が伝わるものとなりました。

ポスター発表の様子

質疑の様子

高等教育研究センター第40回客員教授セミナーを開催

●高等教育研究センター

高等教育研究センターは、12月20日（木）、第40回客員教授セミナーを開催しました。今回は、本間政雄立命館大学副総長が「大学の戦略的マネジメント…何が必要か？」をテーマに講演を行い、学内外の教職員約60名が参加しました。本間副総長は文部科学省総務審議官や京都大学副学長を歴任し、高等教育行政に造詣が深く、また国立大学マネジメント研究会会長を兼ねる立場から大学の執行部・幹部職員へのマネジメント研修にも取り組んでいます。

セミナーでは杉山理事から開会のあいさつがあり、続いて本間副総長が講演を行い、その中で①大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、財務、人事、教育研究の各分野における戦略的マネジメントが各大学とも必要になっている、②それを実現するために、大学トップのマネジメントの改革へのリーダーシップとビジョン、学長を支える大学経営スタッフの登用と組織的・計画的育成、そのための研修制度・プログラムの開発・実施、事務職員の調査分析力と政策立案能力、コミュニケーション能力の向上・強化等が必要である、③大学としての教育力向上のために、教員評価や学生による授業評価、教育プログラムの定期的なレビュー等を積極的に実施する必要がある、と述べました。

講演の後、質疑応答が行われ、参加者から、大学マネジメントにおける事務職員の役割と可能性、大学改革の阻害要因とその除去のための方策、若手職員の意欲向上のための方策等に関する質問が出されました。これに対して、本間副総長は立命館大学の取り組みを紹介しつつ、従来の慣習にとらわれない大胆な改革がますます必要になっていることを指摘しました。

講演する本間立命館大学副総長

会場の様子

「2007秋展　物語文学を読んでみよう」を開催

●附属図書館

附属図書館は、中央図書館４階展示室で年２回の特別展の開催期間外に常設展を開催していますが、10月末から12月末にかけて、「2007秋展　物語文学を読んでみよう」を開催しました。2007年にはそれまで冬展、春展、夏展の３回を「普段は見ない大型本・稀覯本の世界」と題して、中央図書館の準貴重書室や特殊形態資料室などにある珍しい古典図書や巻子本、仏教壁画、絵画の複製などを展示してきましたが、2007秋展は、主題性を持たせ、日本の中古以来の古典物語文学を中心に、おもに草書体の漢字かな混じり文で書かれた刊本や写真複製本、写本など、中央図書館に所蔵する数百点の物語文学の和古書群の中から選んで順次紹介することにしました。

題名やあらすじは知っている著名作品で、昔から日本人が実際にどのようなものを読んでいたのかを実見していただくとともに、それぞれの物語のさわりの部分を実際に読み親しんでいただけるよう、翻刻と現代語訳をつけた展示を工夫しました。

この秋展で展示したのは、竹取物語、伊勢物語、蜻蛉日記、源氏物語、枕草子絵巻、栄花物語、大和物語、北野天神縁起絵巻、車僧草子など10点と、平治物語絵巻、蒙古来襲絵詞、関ヶ原合戦図、大坂冬・夏陣図などの絵図です。

期間中、展示室では市民や学生が熱心に時間をかけて物語を読みふける姿が見られ、普段活字本で読むのとはまた違った趣がある、ほかにも展示して欲しいなどの感想が寄せられました。

なお、１月から３月末まで、2008冬展「物語文学を読んでみよう　Part 2」を、資料の入れ替え、追加をして開催しています。

環境報告書―環境に対する名古屋大学の社会的責任

本学は、2006年から環境報告書を作成し、名古屋大学における①環境負荷の低減対策、②環境教育および環境に配慮した研究活動、③社会貢献に関する活動、をホームページなどで公表しています。環境報告書の作成にあたり、それを公表することの意義について考えることは大切です。現在は、大学も社会の一員として一般の事業所と同様に環境に配慮した対策を十分に行っており、環境保全に努めているという情報発信を常時行っていくことが要請されています。このような情報発信は、学内における環境問題の自覚・啓発のみならず、本学が果たしている社会的責任についての広報機能としても重要で、環境報告書の作成・公表はその有力な手段といえます。

環境報告書の作成では、まず誰に読んでもらうのか、すなわち報告対象者の設定が問題となりました。名古屋大学環境報告書2006および2007では、報告対象者を本学の教職員，在学生及び入学を希望する学生としています。今後の報告書作成にあたっては、近年の地域社会との連携を見据えて報告対象者を見直すこととしています。

ところで名古屋大学環境報告書2006あるいは2007は、学内でどの程度認知され、読まれているのでしょうか。環境報告書に関して学内での説明の機会が少なく、ホームページで公表しているといっても、環境問題などに興味を持っている教職員や学生にしか読まれていないのが現状かもしれません。作成した環境報告書の有効利用、それは報告対象者である大学構成員一人ひとりが大学の環境保全に対する取り組みを認識し、環境を意識した大学にしていくことです。本学では、環境報告書2006のダイジェスト版を作成し、新入生のガイダンスおよびオープンキャンパスの際に配布しました。環境報告書2007はダイジェスト版に加えてポスターも作成し学内に掲示しますので、是非読んで現状を認識していただければと思います。

環境報告書2007は、教員主体の「環境報告書の作成に関する検討 WG」が中心となって編集を進めました。編集方針として、環境に配慮した研究開発の状況、環境に関する教育への取り組み、を名古屋大学独自の項目として挙げるとともに、学生および学内諸団体の取り組み、環境に関する社会貢献活動も含めました。しかしながら、教員主体では限界があります。今後の環境報告書の作成も含めた環境活動に、如何に学生を取り込んでいくかも重要な課題です。名古屋大学環境報告書2007は、以下の URL でご覧頂けます。

http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/rpt.html

この報告書についてのご意見、ご感想を、施設管理課 E メール sis-sou@post.jimu.nagoya-u.ac.jp あてにお寄せください。今後の取り組みや環境報告書2008の内容の拡充に活かしてまいりたいと考えております。

環境報告書自己評価実施報告書、環境報告書2007および環境報告書（ダイジェスト版）2007

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成19年12月16日～平成20年１月15日］

	記事	月日	新聞等名
1	かがく Cafe：鈴木和博・年代測定総合研究センター教授　超大陸、岩石年代から復元	12.16（日）	日経（朝刊）
2	地球異変：バングラデシュは国土の３分の１が３メートル以下の低地　国連は、温暖化が進むと、雨期のある地域では雨はより多くなりサイクロンは勢力を増すと予測する　海津正倫・環境学研究科教授は、「海面上昇も致命的で、水が海に流れにくくなって大規模な洪水の増加を引き起こすだろう」と話す	12.16（日）	朝日（朝刊）
3	「海上の自然とシデコブシ」シンポジウム16日開催：戸丸信弘・生命農学研究科教授	12.17（月）	中日（朝刊）
4	G8大学サミット「サステイナビリティと大学の役割」をテーマに６月末札幌で開催　日本側から本学他13大学が参加	12.18（火）	日刊工業
5	書籍：「中国の環境問題　今なにが起きているか」　井村秀文・環境学研究科教授著	12.18（火）	中日（朝刊）
6	本学で学ぶ留学生が中心となり、学問分野にとらわれない研究成果を発表する学会「Feedforth」を開催	12.18（火）	中日（朝刊）
7	塩村耕・文学研究科教授のグループとの共同研究などが評価され、西尾市岩瀬文庫が国の登録博物館に認定	12.19（水） 1.13（日）	中日（朝刊）
8	名古屋大学英文学会公開講座クリスマスセミナー21日開催	12.19（水）	毎日（朝刊）
9	学生フォーラム2007 in 愛知「日本と朝鮮半島の〈次代〉を創る」22日開催	12.19（水） 12.23（日）	中日（朝刊）
10	第１次世界大戦で日本軍の捕虜となったドイツ兵と名古屋市民の交流の証し「赤十字勲章」が見つかる　羽賀祥二・文学研究科教授は「当時の捕虜収容の歴史や様子を浮き彫りにする貴重な資料」と話す	12.19（水）	中日（夕刊）
11	風向計：フォーイン副社長・久保鉄男氏・本学卒業生　国民車メーカー再生への道	12.20（木）	読売
12	「あいち水害減災フォーラム」２月３日開催：辻本哲郎・工学研究科教授	12.20（木）	朝日（朝刊）
13	「本多静雄のまなざし～新たな美を見出したエンジニア」展　愛知県内４カ所で開催　楢崎彰一・本学名誉教授により、1955年から本多静雄の系統的な学術調査が行われた	12.20（木） 1.15（火）	中日（朝刊）
14	名古屋大学ギターマンドリンクラブ第50回定期演奏会28日開催	12.20（木） 12.30（日）	中日（朝刊）
15	読売講座：「歴史問題とアジア」19日開催	12.20（木）	読売
16	文化：加藤鉦治・教育発達科学研究科教授　錦絵になったお雇い教師	12.20（木）	中日（夕刊）
17	本学　パソコンや携帯電話で国内全15万件の医療機関を検索できる「ホスピタル・ナビ」開発　24日から無料公開	12.21（金）	中日（朝刊） 他４社
18	「東京テクノフォーラム21」公開シンポジウム「再生医療が実現する高齢社会の QOL ～若々しい歯、眼、骨、そして皮膚～」８日開催：上田実・医学系研究科教授	12.21（金）	読売
19	名古屋市自殺対策連絡協議会委員・蔭山英順・本学名誉教授は、「これまで自死家族への配慮があまりにも少な過ぎた」と話す	12.21（金）	朝日（朝刊）
20	学ぶ磨く：「浪漫の街」　名古屋市立大学教授・瀬口哲夫氏・元本学助手	12.21（金）	中日（朝刊）
21	中世史研究会12月例会：齋藤夏来・附属図書館研究開発室特任准教授	12.21（金）	中日（夕刊）
22	中部回顧2007：名古屋市立大学病院の医学博士号を巡る汚職事件を受け、本学と岐阜大学は調査委員会を設置	12.21（金） 12.22（土） 12.25（火） 12.27（木）	日経（夕刊） 日経（朝刊） 毎日（朝刊） 読売
23	木登りで違う景色が見えてくる　コラムニスト・ジョン・ギャスライト氏・本学卒業生	12.21（金） 12.24（月）	日経（夕刊） 中日（朝刊）
24	第6回読売・大学中部地区懇話会11月27日開催：夏目達也・高等教育研究センター教授	12.22（土）	読売
25	医療：手術後の抗がん剤　小寺泰弘・医学系研究科講師	12.23（日）	朝日（朝刊）
26	病院の実力：主な病院の子宮・卵巣がん治療実績	12.23（日）	読売
27	夢むげんだい：愛知県立美術館学芸員・森　美樹氏・本学卒業生　作品を大勢の人に	12.23（日）	毎日（朝刊）
28	第11回四日市ボウル（東海アメリカンフットボール連盟主催）22日開催　本学を中心とする「グランパス」は、中四国選抜の「ファイティングオクトパス」に13-14で惜敗	12.23（日）	中日（朝刊）
29	クローズアップ：本学　「乳歯幹細胞研究バンク」６日設立　上田実・医学系研究科教授は「骨髄や乳歯の体性幹細胞は、移植したときの安全性が高く、少なくとも今後10年は再生医療の主役だろう」と話す	12.23（日）	毎日（朝刊）
30	地球異変：29年前に本学調査隊が撮影した氷河の写真と、今年環境学研究科の調査隊と朝日新聞が共同で撮影したものを比較	12.25（火）	朝日（朝刊）
31	中日新聞・夕刊コラム「紙つぶて」の新しい筆者に福井康雄・理学研究科教授	12.25（火）	中日（夕刊）
32	名古屋手紙の会12月例会26日開催：塩村耕・文学研究科教授	12.25（火）	中日（夕刊）
33	教育再生会議３次報告について中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授は、「報告は全体として総花的。経済、社会的に不利な子どもに将来展望を持たせる施策が今の教育に必要だが、その点は検討されていない」　また立命館大学副総長・本間政雄・本学客員教授は「学長選の全廃は慎重に」と話す	12.26（水）	中日（朝刊）
34	「インド世界への憧れ－仏教文化の原郷を求めて」16日開催：「仏教の未来と共生」宮治昭・本学名誉教授	12.26（水）	朝日（朝刊）
35	近藤孝弘・教育発達科学研究科准教授　「妥協の能力」を政治に	12.27（木）	朝日（朝刊）
36	柏崎刈羽再開の道：鈴木康弘・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は、「海底断層は長さ30キロにわたり、中越沖地震ではマグニチュード7.3の地震を起こしてもおかしくなかった」と推定する	12.27（木）	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成19年12月16日～平成20年１月15日］

	記事	月日	新聞等名
37	本学などアジア太平洋地域の11大学がネットワークを結び、「持続可能な開発」をテーマにした教育や研究に共同で取り組むことを決める	12.28（金）	朝日（朝刊）
38	08課題と展望：小川光・経済学研究科准教授　自治体財政　借り換えで金利懸念	12.28（金）	日経（朝刊）
39	名古屋歴史科学研究会１月例会１月12日開催	12.28（金） 1. 7（月）	中日（夕刊）
40	豊田講堂の全面改修工事が完了　国際会議の実施を想定した構造に	12.29（土）	日経（朝刊）
41	29年ぶりにヒマラヤ航空氷河調査に参加した上田豊・本学名誉教授は、「氷が減って、山が空っぽになったようだ」と落胆する	12.29（土）	朝日（朝刊）
42	最近100年間の地震発生分布と「ひずみ集中帯」は、一致していないことが東大の調査で判明　鷺谷威・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター准教授は、「ひずみ変化は数百年単位で起きる。100年より長期間で評価すべきだ」と話す	12.29（土）	読売
43	名古屋市裏金問題　外部調査委員長・市橋克哉・法学研究科教授は、「私的流用も含め一件一件洗い出し、法律、法令、市の規則に照らして判断する」と話す	12.29（土） 1. 8（火）	日経（朝刊） 中日（朝刊）
44	時津風部屋力士死亡事件で、本学の再鑑定により死に至るプロセスが解明される	1. 1（火）	朝日（朝刊）
45	国際開発、環境学の両研究科が中心となり、アジアや欧州の大学と連携した「持続可能な発展のための教育」科目を大学院教育に導入　温暖化などの地球規模の問題について考えられる人材の育成を目指す	1. 1（火） 1.15（火）	中日（朝刊） 中日（朝刊） 読売
46	本学は、トヨタと次世代カーナビ開発プロジェクトとして、情報系 OS と制御系 OS を連携させるソフト（ミドルウェア）の共同開発を進める	1. 1（火）	日刊工業
47	マイナス80：竹内恒夫・環境学研究科教授　生活変え CO_2を80% 削減へ	1. 3（木） 1. 4（金）	中日（朝刊）
48	本学や岐阜大学など５大学が連携し、がん治療を専門的に行う医師や看護師を育成　日本で不足する抗がん剤治療を行う医師の育成に重点	1. 4（金）	朝日（朝刊）
49	乳歯による再生医療のための「乳歯幹細胞研究バンク」15日から稼働　全国から反響続々	1. 6（日）	毎日（朝刊）
50	中日新聞を読んで：中西久枝・国際開発研究科教授　生身の感覚で世界をみる	1. 6（日）	中日（朝刊）
51	病院の実力：主な病院の乳がん治療実績	1. 6（日）	読売
52	マイナス80：竹内恒夫・環境学研究科教授　カーボンニュートラルな薪ストーブ	1. 7（月）	中日（朝刊）
53	鍋島俊隆・本学名誉教授は、「薬は正しく使えば人々に幸福をもたらす。すべては使い方次第だ」と話し、薬剤師や市民を対象とした講演会で薬の知識を説く	1. 7（月）	読売
54	科学の魅力をアニメやマンガで伝えようとする動きが広がる　理系漫画家のはやのん氏の描いた太陽地球環境研究所の科学マンガは、日本語版、英語版に加えて今年はさらに20カ国語に翻訳される予定	1. 7（月）	日刊工業
55	英国の教育専門誌が毎年発表する「世界大学ランキング」は、国境にこだわらず大学を選択する研究者や学生の重要な指針　本学は112位（2007年）	1. 8（火）	読売
56	本学と名城大学は、高度な医学薬学教育を行う「地域連携創薬科学研究科」を新設　2012年から学生を受け入れる計画	1. 8（火）	日刊工業
57	學生之新聞：今年のテーマは「輝（かがやき）」 編集長の丹羽亜衣さん・本学大学院生は「現状を分析し、過去に学んでいきたい」と話す	1. 8（火）	中日（朝刊）
58	朝日カルチャーセンター：古尾谷知浩・文学研究科准教授　平城京の今	1. 8（火）	朝日（夕刊）
59	混声合唱団「コール・グランツェ」 創団30周年を記念しプロが作曲した新曲を27日に披露	1. 9（水）	朝日（朝刊）
60	平野眞一総長　－予防早期医療創造センター－設置の目的と構想	1. 9（水） 1.11（金）	日経（夕刊）
61	加藤豊弥子氏・本学卒業生　私と増山たづ子さん	1. 9（水）	朝日（夕刊）
62	医学部附属病院消化器外科は、進行膵臓がん患者対象に、ヘルペスウイルスに感染させてがん細胞を殺す臨床試験を１月から開始　膵臓がんでは世界初の試み	1.10（木）	朝日（朝刊）
63	総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授の徹底したエコライフ	1.10（木）	朝日（朝刊）
64	東海やきもの今昔：名古屋造形芸術大学非常勤講師・浅田員由氏・本学卒業生　太古の昔から人類の身近に	1.10（木）	中日（夕刊）
65	やめさせよう！「全国学力テスト」－競争と格差の教育はゴメンだ！ 14日開催：中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授	1.11（金） 1.15（火）	中日（朝刊）
66	朝日カルチャーセンター：木俣元一・文学研究科教授　ゴシックとルネサンスの祭壇画	1.11（金）	朝日（朝刊）
67	紙上ゼミナール：（株）ＭＡＣコンサルタンツ代表取締役・齋藤孝一氏・本学卒業生　最近話題の定期借地権とは	1.11（金）	中日（朝刊）
68	医学部附属病院に06年７月からコンシェルジュを配置　現在４人がセカンドオピニオン外来や地域連携の分野で活躍	1.12（土）	朝日（朝刊）
69	紙つぶて：福井康雄・理学研究科教授 「なんてん」と南天	1.12（土）	中日（夕刊）
70	新テロ対策特別措置法11日成立　小野耕二・法学研究科教授は「日本の国際貢献のあり方を問う絶好の機会だったが、議論が深まらないまま成立に至った印象があり残念だ」と話す	1.12（土）	読売
71	ラジオ公開生放送「東海・東南海地震～あなたの備えは大丈夫？～」20日放送：コメンテーターは福和伸夫・環境学研究科教授	1.12（土）	中日（夕刊）

本学関係の新聞記事掲載一覧［平成19年12月16日～平成20年１月15日］

	記事	月日	新聞等名
72	「次世代に残したい、名古屋の自然」12日開催：佐藤紳司・理学研究科助教が座長	1.13（日）	中日（朝刊）
73	大竹尚登・工学研究科准教授とアイモットが共同で、ダイヤモンド・ライク・カーボンの45倍の強度を持つ成膜技術を開発	1.14（月）	日刊工業
74	「平成19年度コニカミノルタ画像科学奨励賞」の受賞者に竹岡敬和・工学研究科准教授ら５人が選定される	1.15（火）	日刊工業
75	マイナス80：竹内恒夫・環境学研究科教授　薪ストーブ（２）	1.15（火）	中日（朝刊）
76	名大サロンの主役：齋藤文俊・文学研究科准教授　和訳に影響　漢訳聖書	1.15（火）	中日（朝刊）
77	数理ウェーブ26日開催	1.15（火）	中日（朝刊）
78	健康教育講座「ドライアイ」28日開催：杉田二郎・医学部附属病院助教	1.15（火）	日経（夕刊）
79	第38回全日本学生将棋団体対抗戦12月26～28日開催：本学は昨年と同じ４位	1.15（火）	朝日（夕刊）

INFORMATION

平成19年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、１月28日現在のものです。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

所　属	氏　名	職名	月　日	時　間	場　所	講義題目	問い合わせ先	備　考
文学研究科	山田　弘明	教授	１月28日（月）	15:00～16:00	237講義室	西洋近世哲学と神	金山弥平教授 052-789-2211	
法学研究科	河野　正憲	教授	３月８日（土）	15:00～17:00	法学部第３講義室	近代的民事訴訟の成立と構造 －わが国民事訴訟手続の比較歴史的考察－	渡部美由紀准教授 052-789-4907	
	福家　俊朗	教授	２月23日（土）	14:00～	法学部第１会議室	近代法の原理に即して根源的に考えることの難しさ－38年間の研究生活を省みて	稲葉一将准教授 052-788-6241	原則として、公法研究会の会員の方を対象にしています。
	加藤　久和	教授	３月６日（木）	15:00～	法学部第１会議室	地球環境問題をめぐる科学、政治、経済、そして法の交錯	杉浦一孝教授 052-789-2328	
理学研究科	上村　大輔	教授	２月29日（金）	16:30～18:00	野依記念物質科学研究館２階講演室	時を超える「ひと」、「もの」、「こころ」	庶務掛 052-789-2308	定年１年前の退職です。
医学系研究科	吉田　純	教授	３月11日（火）	15:00～16:00	基礎医学研究棟４階第４講義室	名大脳外科：過去と今とこれから	総務課総務第一掛 052-744-2774	
	島田　康弘	教授	３月14日（金）	17:00～18:00	基礎医学研究棟４階第４講義室	私の歩んできた道	総務課総務第一掛 052-744-2774	
医学部保健学科	後藤　節子	教授	３月６日（木）	14:00～15:00	東館４F 大講義室	死亡ゼロを達成した若年女性のがん －予防的管理と早期治療の軌跡－	総務第三掛 052-719-1580	
	前田　尚利	教授	３月７日（金）	14:00～15:00	東館４F 大講義室	これからの放射線科の役割	総務第三掛 052-719-1580	
	田伏　勝義	教授	３月７日（金）	15:30～16:30	東館4F 大講義室	医学物理士としての30年	総務第三掛 052-719-1580	
	伊藤　秀郎	教授	２月21日（木）	15:30～16:30	東館4F 大講義室	院内感染対策と微生物検査室の役割	総務第三掛 052-719-1580	
工学研究科	沓名　宗春	教授	２月22日（金）	15:30～17:00	１号館２階 121講義室	溶接ワイヤーから ALIMS の開発まで40年	総務課総務掛 052-789-3402	
	宮田　隆司	教授	２月29日（金）	15:00～16:30	４号館中央棟３階 講会義室	破壊力学と材料　－力学屋の材料強度学－	総務課総務掛 052-789-3402	
	桑原　守	教授	２月29日（金）	13:00～14:30	４号館中央棟３階 講会義室	材料反応工学の道40年	総務課総務掛 052-789-3402	
	坂田　誠	教授	３月11日（火）	15:00～	１号館２階 121講義室	海洋観測船・中性子回折・放射光科学……	総務課総務掛 052-789-3402	
生命農学研究科	福田　勝洋	教授	２月21日（木）	13:35～14:20	第12講義室	動物に助けられて	庶務掛 052-789-5266	
	山木　昭平	教授	２月21日（木）	14:25～15:10	第12講義室	果物そして人との出会い	庶務掛 052-789-5266	
	磯部　稔	教授	２月21日（木）	15:15～16:00	第12講義室	生物有機化学40年の展開	庶務掛 052-789-5266	
	島田　清司	教授	２月21日（木）	16:05～16:50	第12講義室	「ニワトリ研究の世界の先達となれ」を目指して	庶務掛 052-789-5266	
多元数理科学研究科	浪川　幸彦	教授	３月14日（金）	15:00～16:00	理１号館509号室	モジュラスの花園ー巨人の肩の上でー	納谷　信教授 052-789-2814	定年１年前の退職です。
	梅村　浩	教授	３月14日（金）	16:15～17:15	理１号館509号室	射影極限と帰納極限	納谷　信教授 052-789-2814	
国際言語文化研究科	中井　政喜	教授	１月25日（金）	14:45～16:15	S13教室	魯迅の小説『離婚』について	丸尾　誠准教授 052-789-5702	定年前の退職者です。
環境学研究科	山田　功夫	教授	３月22日（金）	17:00～18:00	環境総合館 レクチャーホール	地球惑星科学における観測	庶務掛 052-789-3454	シンポジウムと併せて開催します。
	八田　武志	教授	３月６日（木）	15:00～	全学教育棟南棟２階 S2X 教室	健やかな老年期のためにー住民検診からの提言ー	情報文化学部･情報科学研究科庶務掛 052-789-4717	定年１年前の退職者です。
情報科学研究科	廣木　詔三	教授	３月10日（月）	15:00～	全学教育棟南棟１階 S16教室	火山植生の遷移とブナ科の比較生態の研究 ー八方美人とあぶはち取らずの人生ー	庶務掛 052-789-4717	
環境医学研究所	妹尾　久雄	教授	３月７日（金）	16:30～17:30	東山キャンパス 「グリーンサロン東山」	環境医学研究所での内分泌学研究	神部福司准教授 052-789-3866	
太陽地球環境研究所	小川　忠彦	教授	３月19日	14:30～17:00	高等総合研究館６F カンファレンスホール	電波で電離圏を探る	総務課第一庶務掛 052-747-6303	
	小島　正宜	教授	３月19日	14:30～17:00	高等総合研究館６F カンファレンスホール	ロードマップは、科学の進展に役立つか	総務課第一庶務掛 052-747-6303	

開催月日・場所・問い合わせ先等　　内容

2月16日(土)、3月1日(土)、3月15日(土)
場　　所：経済学研究科
　　カンファレンスホール
時　　間：10:00〜12:00

[問い合わせ先]
経済学研究科エクステンション・サービス
Fax：052-788-6197
URL：http://www-oc.soec.nagoya-u.ac.jp/
E-mail：ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」

2/16　講演内容：「地球大気と環境問題」
　　講 演 者：松見　豊（太陽地球環境研究所教授）
3/1　講演内容：「戦後日本における鉄鋼製造の技術革新」
　　講 演 者：黒田光太郎（工学研究科教授）
3/15　講演内容：「江戸時代の法と裁判」
　　講 演 者：神保文夫（法学研究科教授）

2月16日(土)、17日(日)
場　　所：文系総合館7階
　　カンファレンスホール
時　　間：2/16　14:00〜17:50、
　　2/17　9:30〜17:30
参加無料

[問い合わせ先]
国際言語文化研究科　福田眞人教授
052-789-4792　fukuda@nagoya-u.jp

国際シンポジウム「身体のトポロジー」

内　　容：人間の身体認識・感覚が歴史の流れの中でどのように変化してきたかを学際的に問う。イメージと言葉が織りなしてきた身体を巡る医学的、哲学的、文学的表象の多様性・重層性を探る試みである。医学者、医学史家、文化史研究者、文学研究者まで幅広い人員を結集して論議を繰り広げる。
使用言語：英語

2月18日(月)
場　　所：文系総合館7階オープンホール
時　　間：13:30〜16:00
参加無料

[問い合わせ先]
高等教育研究センター　中井俊樹准教授
052-789-5385

高等教育研究センター　第68回招聘セミナー

講演内容：「カナダの研究大学における教育改善」
講 演 者：シンシア・ウェストン カナダ マギル大学教授、
　　マリエラ・トヴァー カナダ マギル大学准教授
使用言語：英語、通訳なし

2月18日(月)、4月21日(月)、5月29日(木)
場　　所：環境総合館1階
　　レクチャーホール
時　　間：18:00〜19:30
参加無料

[問い合わせ先]
災害対策室　052-788-6038
taisaku@seis.nagoya-u.ac.jp
http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/

第37〜39回防災アカデミー

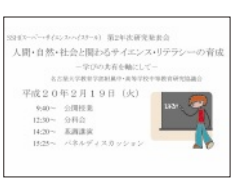
第37回　講演内容：スマトラ津波と復興
　　〜私が災害研究に惹かれたわけ〜
　　講 演 者：高橋　誠（環境学研究科准教授）
第38回　講演内容：地域ぐるみで守る！
　　〜防災まちづくり大賞を受賞して〜（仮題）
　　講 演 者：大石昇司（札幌市南区澄川地区連合会会長）
第39回　講演内容：未定
　　講 演 者：柴田いづみ（滋賀県立大学教授）

2月19日(火)
場　　所：教育学部附属学校
時　　間：9:00〜16:30

[問い合わせ先]
附属学校事務室　052-789-2680、2681

SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）第2年次研究発表会
人間・自然・社会と関わるサイエンス・リテラシーの育成
—学びの共有を軸にして—
名古屋大学教育学部附属中・高等学校中等教育研究協議会

基調講演「21世紀のサイエンス・リテラシー」
パネリスト：池内　了 総合研究大学院大学教授、
　　戸田山和久（高等教育研究センター長、情報科学研究科教授）



2月23日(土)、24日(日)
場　　所：名古屋大学博物館、名古屋駅、
　　栄及び中電東桜会館
時　　間：2/23　13:30〜16:30、
　　2/24　9:00〜15:00
定　　員：30名
対　　象：小学3年生〜中学3年生と
　　その保護者
参 加 費：700円

[問い合わせ先]
博物館事務室　052-789-5767

第5回地球教室（親子対象フィールドセミナー）
「ナゴヤで化石をさがそう！」

※要事前申込。往復はがきに、イベント名・郵便番号・住所・参加者全員の氏名（ふりがな）・電話番号・学校名と学年または保護者の別・このイベントを知った方法・返信宛名を記入して、次の住所までお申込み下さい。
464-8601　名古屋市千種区不老町　名古屋大学博物館　地球教室事務局
申込締切：平成20年2月12日（火）必着
※応募多数の場合は抽選となります。ご了承下さい。

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等　　内容

2月28日（木）
場　　所：豊田講堂
時　　間：16:00〜18:00

［問い合わせ先］
予防早期医療創成センター
052-789-5499
http://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/

予防早期医療創成プロジェクト 名古屋大学フォーラム2008

コーディネーター：町永俊雄（NHK エグゼクティブ・アナウンサー）
パネリスト：鎌田　實（諏訪中央病院名誉院長）
　　菊川　怜（女優）

3月3日（月）
場　　所：附属図書館（中央図書館）
　　5階多目的室
時　　間：18:00〜19:15
参加無料

［問い合わせ先］
附属図書館庶務掛　052-789-3667

附属図書館研究開発室第29回オープンレクチャー

講演内容：大学図書館を巡る話題：MS と OS
講　　師：逸村　裕 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授

3月4日（火）
場　　所：中央図書館5階多目的室
時　　間：18:00〜

［問い合わせ先］
附属図書館友の会　052-789-3666

名古屋大学附属図書館友の会　トークサロン ふみよむゆふべ　第11回

「名著『字源』の著者・簡野道明の若き日の足跡を訪ねて」
講 演 者：加藤國安（文学研究科教授）

3月13日（木）
場　　所：経済学部第１講義室
時　　間：13:00〜
参加無料

［問い合わせ先］
研究協力・国際部研究支援課高等研究院掛
052-788-6051、6153

第３回高等研究院スーパーレクチャー

講演内容：①「Kai タンパク質が刻むシアノバクテリアの一日」
　　②「動物が季節を読み取る仕組みを探る」
　　③「生命現象とシグナル伝達：モデル動物からのアプローチ」
　　④「動脈硬化のしくみをさぐる」
講 演 者：①近藤孝男（高等研究院長、理学研究科長・教授）
　　②吉村　崇（生命農学研究科准教授）
　　③松本邦弘（理学研究科教授）
　　④貝淵弘三（医学系研究科教授）

名大トピックス No.177　平成20年2月15日発行
編集・発行／名古屋大学広報室
本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。
名古屋市千種区不老町（〒464-8601）
TEL 052-789-2016　**FAX** 052-788-6272　**E-mail** kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
（http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/）でもご覧いただけます。

表紙

流鏑馬デモンストレーションの様子（和式馬術部）
（平成19年11月４日）

70　名大史ブックレット　―テーマ別の名大史―

大学文書資料室は、2000(平成12)年から『名大史ブックレット』シリーズ（以下、ブックレット）を編集発行しています。ブックレットは、A5判サイズの各巻カラー表紙で、本文・図版をあわせて60ページ前後の仕上がりとなっています。

このブックレット刊行のきっかけは、本連載第68回（No.175）で紹介した自校史教育にあります。2000年度当時、本資料室は大学史（自校史）教育のカリキュラム開発に取り組んでおり、その一環として自校史教育の教材についても検討を行っていました。その結果、新入学生および初任職員を中心とした本学構成員はもとより、本学の歴史に関心を寄せる一般市民にも気軽に読んでもらえるよう、テーマ別構成による「読み物」的な名大史の入門書を作成する方針が採用されたのでした。

この教材開発の企画は、2000年度の教育研究改革・改善プロジェクト経費（総長裁量経費）が認められ、同年度末までに３冊のブックレットが編集発行されました。自校史教育の教材開発という観点から試行的に編集発行されたブックレットは、幸いなことに学内外の方々から好評を得ることができ、2001年６月、中日新聞朝刊に取り上げられています（写真１）。

その後、ブックレットは毎年１～２冊のペースで刊行され、2008年１月現在で既刊全12巻となっています。各巻のテーマや表紙は下のとおりです（写真２）。

なお、2005年８月にはインターネット上からも閲覧・印刷などができるように電子版ブックレットの公開サービスを開始しました。この電子版ブックレットは、大学文書資料室のホームページ（http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/booklet/）から利用することができます。

名大の歴史テーマ別に

全国初の試み

ブックレットを刊行

名古屋市千種区、名古屋大の大学史資料室（室長・加藤鉦治教育学部教授）は、同大の歴史をテーマ別にまとめた「名大史ブックレット」の刊行を始めた。全国でも初の試みで、単に同大だけではなく、日本の大学が どう動いてきたかを知る貴重な資料になりそうだ。

同資料室は『名古屋大学五十年史』の「部局史編」を一九八九（平成元）年に、「通史編」を九五年に出版した。いずれも大部の本で一般向けではないため、学生や市民が気軽に手に取れる本を出そうとブックレットを企画した。通史のダイジェスト版を出す大学は多いが、テーマ別で全冊新たに書き下ろすというのは例がないという。

ブックレットはA5判。昨年十二月から、「これまでの大学院・学部」「名大祭」などがテーマに挙がっている。全部で十五冊前後を刊行する予定。「外国人教師」「名古屋大学キャンパスの歴史1（学部編）」「名古屋大学スポーツの歩み」の三冊を出版した＝写真。名大の歴史を通して、大学院の歴史、都市計画と大学キャンパスの関係、大学スポーツの流れが分かる解説書にもなっている。

今後、毎年二、三冊、学院・師範などがこれからの大学院・名古屋大学キャンパスの歴史1（学部編）」「名古屋大学スポ

問い合わせは同資料室＝電（789）2046＝へ。

1『中日新聞』2001年６月15日付21面
（同社提供）

2　名大史ブックレット　各巻表紙

本連載で紹介できる名古屋大学の歴史に関する情報をお持ちでしたら、大学文書資料室（052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡ください。